

日時：令和6年2月22日（木）10：00～12：00

場所：会議室

出席者：12名

- ・委員9名（4名欠席）  
寺澤幸昌、工藤昌雄、佐藤晃、滝沢勝美、瀬川恵子、高宮征宏、田中耕一、齋藤学、吉田裕香
- ・千葉賢 校長
- ・事務局 後藤知恵（副校長）、石川千枝（総務主任）

## 開 会（事務局 後藤）

### 1 会長あいさつ

例年に比べ積雪の少ない年で、八幡平の樹氷もだめだった。水不足にならなければよいなと思っている。入学希望者数が20名減という結果が出た。更に盛り上げていきたい。

### 2 学校長あいさつ

足元の悪い中、ご参加いただき感謝申し上げます。

先日八幡平市のコミュニティ・スクール推進協議会に参加した際、地域に根ざした学校として高く評価されていることを実感した。スキー部の方もインターハイにおいて山下選手が回転競技で21位と健闘してくれた。本校の生徒たちはよく頑張っていると実感している。

入学生の減少という状況であるが、新1年生は全員が個人のPCを持って入学してくるようになってきているので、一人一台端末の授業推進に向けて備えたいと思っている。ICTによる学習支援教材の導入も検討中である。それから、県外募集についても八幡平市の協力を得たところであり、今後更に力を入れて本校の活性化を図っていきたい。

本日は、今年度の活動のまとめ、そして来年度に向けての展望というところについて様々ご意見をいただければ大変ありがたいと思っている。どうぞよろしく願います。

### 3 協議 【進行：田中会長】

#### (1) 令和5年度学校評価集計結果について

\* 学校評価アンケート（教員・保護者/生徒）結果について、資料に基づいて、事務局の後藤より説明。その後各委員より質問、意見をいただく。

Q. 「本校に入学してよかったか」の質問に対して、4分の1の生徒が「どちらかと言えばあてはまらない」「あてはまらない」と回答していることについて、どこに満足していなかったのかという追加の調査はされたのか。（吉田委員）

A. していない。この学校評価アンケートの各質問項目で評価が低い結果となった項目がまず課題だと捉える。（事務局 後藤）

・ 個別に直接聞いてみると、満足度を上げるための解決の糸口が見えてくるのではないかと考える。（吉田委員）

・ 生徒を特定して担任に繋げ、個人面談等に対応していきたい。

（事務局 後藤）

- 地域ボランティアについて低い評価となっているが、アプローチは結構している方ではないかと思っている。声かけの時期が直前だったり、学校のスケジュールが合わなかったりという状況もあるが、一昨年までは、八幡宮のお通りにも参加してもらっていた。9月には八幡平市青商会の職業体験にボランティアを要請した。これからもアプローチの頻度を上げようと思えば、上げられる。学校側のスケジュール調整や呼びかけの強さを変えていただければ、地域活動参加への生徒も増加し、満足度はあがっていくのではないかと。（齋藤委員）
- 地域連携というところでは、福祉施設でも発信していかなければならないと考えている。包括支援センターにはそのような義務もある。ここ数年コロナの影響があったが、来年度はかなり緩和されると思うので、私たち福祉施設もボランティアの呼びかけ等積極的に取り組んでいきたい。（高宮委員）
- 生徒のアンケートで、「あてはまらない」と断言した回答が以外に多いことに驚いている。（どちらかといえば・・・という無難な方を選びそうなものだが）その中で、生徒指導のいじめの未然防止のところの否定的回答が多いことが気になった。いじめに関して、意見や要望の記述にはないが、潜在的に何かあるのかなあと見せていただいた。（瀬川委員）
- 教員と保護者のアンケートのところで、教員がやっていることに対して、保護者の方から良く見られないという傾向はよくあるものだと思う。特に熱心な保護者の方はその思いからそのような評価になるのだろう。

教員の回答の中でも否定的評価が高くなっている 17 番の「部活動における環境」のところは、なぜそのような評価になるのか、記述式にして原因を明らかにして公開していくべきである。

生徒のアンケートについても、否定的評価が高い部分については、気を付けて見ていかなければならない。

地域の連携（ボランティア）については、思いがあってもできなかったのか、思いがなかったのかわかれば、それぞれに対しての取り組みができるのではないかと。いずれ地域での活動は、すぐ社会に出る社会人になるのが近い生徒たちにとって必要な活動である。

アンケート結果を来年見せていただく時はぜひ学年別に集計して見せてもらうと傾向がわかりやすいと思う。

最後に総合的なところで、「本校に入学して良かった」の回答に「あてはまらない」とした 10%の生徒が入る前からそうだったのか、入ってから何かがあっただけでそう思ったのかすごく気になることである。（ただ中学校の先生から言われて入った人と、入りたいと思って入ってきた人では違いが出ると思う。自分で選んだ人は山も乗り越えるだろう。）記述式のところも、無理なことも書いてあるが、出来ることであれば、色々と学校の方でも取り組んでいただきながら、できないことに関して生徒に理解してもらいながら進めていきたい。（滝沢委員）
- 一番気になったのは総合評価のところで、本校に入学して良かったと思えなかったのはどうしてなのか、中身をしっかりと分析すべき。授業の在り方、学校の雰囲気などいろいろあるかもしれない。入ってから何か違っていただけか、今現状やってみて、将来に期待できないというようなイメージを持たれている可能性もある。

部活動のところに関しては、ぜひ生徒の要望を叶えられるように進めていただきたい。学校に対する要望のところも、学校が寒いというようなところ

は、体調にも関わることなので、上着の着用等教えた方が良い。(佐藤委員)

- アンケートとは関係ないが、今年度平舘高校は色々と生徒の活躍があって新聞等にもたくさん出ていた。大変いいなあと思って拝見していた。新聞などで取り上げられることは、本人たちだけでなく、高校生たちも自分の学校に対して誇りが持てることである。また、ただ単に高校を世間にPRするというだけでなく、地域の方もそれを見て共感的に共有することになるので、今年度は本当に良かったと高い評価をしている。引き続き先生方、指導やサポートしていただければと思う。

アンケートに関して私が気になったのは、保護者と教員の9番「本校での補習や課外は、生徒一人ひとりの実情に合わせた内容になっているか」のところ、教員の「そう思う」がアンケート全体の中で一番低い値になっている。生徒に合わせた指導になっていないと思っている方が多いということなので、校内での指導体制やサポートの仕方等研修などをしないと先生方のモチベーションも上がっていかない。それが生徒たちにも伝わっていると思うので、何か工夫する必要がある。

2点目は、一人ひとりに合った指導をしているかが低い値になっているところは、いじめとの関連があると思われる。いじめは、表面化した時は修正不可能なものである。そのような現象がある場合、生徒たちは早く見つけてくれないかと思っていると思うので、事前に個に合わせたカウンセリングマインドで対応していかなければならない。保護者もそれをしていないと思っているような感じになると思うので、問題が大きくなる前に重点事項の1つとして、保護者との連携を取ったりコミュニケーションを深めたりした方がよい。

3点目は、基礎基本の定着(授業満足度)のところ、評価は高いが主観的な気持ちの部分が多く、分かったと思っているても本当に学力が身に付いたのかどうかを客観的なデータで示していかなければならない。(基礎基本を調査するテストなどで工夫)(工藤委員)

- 中学校でも同じように学校評価をして、今年は地域連携や地域貢献活動に力を入れようと宣言してやってきたにも関わらず、数値が昨年度よりも低くなってしまった。自己分析して2つのことを考えた。1つは、そもそも子どもたちの自己評価が低い。これくらいやって当たり前という子どもがいれば、その子どもは評価を低くつける。小さい頃からそういう活動をしっかりやっている子とか、地域で活動している子というのは、低くつける傾向があるということである。2つ目として、このアンケートの取り方の部分で、「地域の行事に参加した。地域社会などでボランティア活動に参加した。」と2つのことは聞いているが、これを1つと見た場合に参加したかしないかと言ったら、実は参加したかしないかで2択になる。「どちらかといえばあてはまらない」という答え方をしているものを肯定的な方に入れて見れば、66%が「参加した」に入るのかなというように考えた。子どもたちがこの4つの回答をどこで振り分けたかという、主体的であったかどうか、そういう部分に関わってくるのではないかと思う。(寺澤委員)
- 地域行事は小中学生の活動を中心に企画して実施されていることが多い。これからは地域の方でも高校生に参加してもらえるようなものを考えていかなければいけないと考えた。そのためには、やはり学校とも交流を持たないとダメだということを実感した。(田中会長)

(2) 令和5年度学校重点目標に対する学校関係者評価について

\*資料のとおり、事務局の後藤より説明。その後各委員より質問、意見をいただく。

- ・ 先ほどお話しさせていただいたとおりであるが追加で。進路目標実現することに関連した肯定評価で、教員が100%と考えているが生徒は88.5%というところもあり、その辺の乖離は何だろうと思うところがある。先生はやったと思っても生徒には届いていない。一人ひとりの思いを組むのは大変かもしれないが、この高校に入ってよかったという満足度を上げていくためにも中学校から平館高校に入っていい大学にも行けるし、いいところにも就職もできるという流れをしっかりと作っていかなければならない。中学校にも十分対処してもらって、盛岡に行かなくとも平館高校で頑張ればいいよというところを校長間で連携を取っていただければと思う。(滝沢委員)
- ・ ボランティア活動のところで、生徒たちの達成感があるというのは、お祭りなどもあるかもしれないが、社会福祉協議会のボランティアなどで困っている人に手を差し延べるといった活動がより満足感が上がると考える。  
(佐藤委員)
- ・ 冬季にスノーバスターズという雪かきの取り組みをやっていて、ボランティアの対象が中学生になっているようなので、高校生も取り組めるように上に伝えたい。私は障がい者の施設にいるが、将来を見据えて、こういう仕事もあるということを知ってもらいながらのボランティア活動もよいと思うので進めていきたい。(瀬川委員)
- ・ ある地域では、高校生とマッチングしてスノーバスターズに取り組んでいる。それによって高齢者が助かっているという成功事例もあるので、そのような事例のまねから始めるというのも1つなのかなと考えた。私も発信できればいいなと思うし、一緒にやっていければと思った。  
(高宮委員)
- ・ この4年間はコロナ禍ということであったが、それでもできる活動は何かを考えながら活動してきた。野球部は年4回の地域の小学生を対象にした野球教室で技術のレベルアップに貢献したり、家庭クラブは、外で一緒にムラサキの種を植えて、地域の花を増やしましょうといった取り組みを行ったりしながら活動した。今提案してくださったものにも応えていくのがこれからののだとは思いますが、生徒減の状況も踏まえると、スノーバスターズなどは駅に限ってやるなどの方法なのかと考える。  
本校の生徒は、やっているのにも関わらず、話をしてみると自己肯定感が低いと思うことは確かにあった。これだけやっているではないかと言っても。自分のやっていることを評価しないところがあるので、いいことをやっているのだということを日々教えていかなければということを改めて今会議で実感した。(事務局 石川)

(3) 令和6年度学校経営計画(案)について

\*資料に沿って、千葉校長より説明。その後委員の方々にご意見を伺う。

- ・ 魅力化パートナー、我々のことになるが、八幡平市商工会事務局長は、八幡平市商工会とすれば全てを網羅する。(女性部、青年部) (滝沢委員)

- ・ 全体的に見て素晴らしいとは思いますが、「豊かな心と健やかな体」という重点目標について、自分で癒す力を育むというものがこの中に入っているのだろうかということを感じた。

先日参加したパネルディスカッションにおいて、「好きなこととか、気分転換とか、日々のルーティンって何かありますか。」という質問に対して、20人中18人が「ありません」と回答した。これが、自己肯定感ができない状況に繋がっているのかもしれないと感じた。このようにすれば良いというようなやり方について、カリキュラムの中に指導できるものがあれば子どもたちの意識が高くなっていくのではないかと思う。

あと、生徒の褒め方として、1～100まである時、100%まで来たら褒めるのではなく、25%で褒めてあげてを教員が意識的に続けて行くことで、生徒の中に「これで良いのだ」という成功体験や自己肯定感が育まれていくと考える。そのような力を育むという点を何か組み込んでいただけたらと思う。(吉田委員)

- ・ 個人の容姿とかを褒めるのではなく、やっている行動を褒めることが大事であることを以前参加したセミナーで学んだ。やっている姿というのは、絶対否定されるものではなく、肯定されるものなので、あなたのことを見ているのだよと言うことが伝われば、良い行動に繋がっていくだろう。

(滝沢委員)

- ・ 自分の体験から、学校運営計画はどうしても人格の陶冶中心の計画になりやすい。しかし、生徒や保護者は、平館高校で学んだ後次にどこに行けるのかという意識があるはずなので、具体的に示してあげることが必要になると考える。どういう取組をして就職100%を目指すのか、大学進学を実現させるのかということがある程度見える形でないとう大丈夫かなと思われるのではないか。学校の体制として先生方にとっても、進路目標が文字化されていないと、指導が流れやすくなる。経営計画の上段のところで、進路実現はこうするということを打ち出していかないと、アピール度が弱いと感じる。

(工藤委員)

#### (4) 令和6年度学校運営協議会委員について

- ・ この体制でよいのではないかと追加メンバーに推薦があれば、後日お願いするということにしたい。(田中会長)

\*異議は特になし

#### (5) その他

- ・ 今年度の進路状況(100%決定)について、資料を提示し事務局後藤から報告。

- ・ その他ご意見等

①この運営協議会の開催日程についてであるが、教育委員会代表の遠藤さんが出席できる日程で設定して欲しい。(市の無償化奨学金等の話題をする場合等、必要な立場の方である。)(滝沢委員)

②教育振興推進協議会での家庭クラブのムラサキの発表は素晴らしかった。(仮説を立てる、エラーを発生させてそのエラーに対して修正して見事に実績を出したという過程が素晴らしい。発表態度も。)親の間でも評価が高かったなので、ぜひ生徒たちを褒めてあげて欲しい。(吉田委員)

③進学者が就職者を上回る状況を見て、今後進学希望者に対する体制を考えていかなければならないと感じた。推薦が多いようだが、実力で入れる生徒も育てていかなければならないだろう。(工藤委員)

④以前学級を回って歩いた時に、教室の掲示板に企業のチラシを掲示しているのを見たが、市内企業のものは無かったので、身近な企業のものも柔軟に取り上げて欲しい。作った冊子などは届いているはず。商工会青年部が担い手事業を頑張っているのも市内に就職してくれる生徒を確保したいという思いでやっているのでも何とかお願いしたい。(滝沢委員)

#### 4 その他

\*本日もたくさんのご意見やご提言ありがとうございました。先程も話しましたが、お話を伺う中でどんどんアイデアも湧いてきました。本当にありがたいと思っています。次年度以降も学校運営にご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。(千葉校長)

閉 会